

屋久島農業普及だより

[編集発行]

屋久島事務所農林普及課農業普及係

屋久島町安房650 TEL:0997-46-2236 FAX:0997-46-3384

地域の課題を共有し、よりよい地域農林業を
一緒に築いていきましょう！



宮下 浩秋
農林普及課長

令和2年度農業普及係では、①屋久島農業を支える担い手農家の育成、②次世代リーダーの確保・育成、③地域の特性を活かした産地育成、④6次化ビジネスモデルの育成の4課題に、農業者の皆さんや関係機関団体と取り組んでいきます。

しかし、現在は、新型コロナウイルス感染症対策として、2mの距離を保ち、マスク着用や3密（密閉、密集、密着）を避けた対応となっています。これからお互いの命を守るため予防策を徹底し、技術及び経営等の普及指導活動に取り組みますので、皆さんの御理解、御協力をお願いします。



農業普及係



樋口真一

技術主幹兼農業普及係長

係の総括
果樹



石元祐子

技術専門員

地域振興、経営
食育・地産地消
女性起業



小野田剛

技術専門員

野菜・花・作物
病虫害、農産物認
証制度



中野祐歩

農業技師

畜産、青年農業者
育成、新規就農者
育成、農業制度資
金



柚木和也

農業技師

茶、担い手育成
土壌肥料、
スマート農業



農村整備係



瀬戸口洋一

技術主幹兼農村整備係長

係の総括

水土里サークル活動
新規事業計画



佐古陽子

技術主査

畑総鈴岳地区
ストマネ第一屋久南
地区



堀内信一郎

技術主査

畑総鈴岳2期地区
中山間屋久地区
防災減災神山地区



林務係



税所博信

林務係長

係の総括
狩猟・緑化推進



吉原勝利

技術専門員

森林整備
林業担い手対策

秋の茶園土壌管理について

1 はじめに

屋久島の土壌は礫質普通赤色土壌で、有効土層が浅いほか、粘着性で水はけが悪く、石灰等が溶脱し酸性化しやすい傾向にあります。そのため、定期的な土壌改良材の投入が必要となります。なお、土壌改良材の投入にあたっては、土壌診断により適切な投入量を検討する必要があります。以下は昨年の屋久島での土壌診断の平均値と県の基準値の比較です。石灰苦土が基準値に足りていないことがわかります。

	pH	Ca (mg/100g乾土)	Mg (mg/100g乾土)	K (mg/100g乾土)	腐植 (%)
屋久島 (R1平均) 34点	4.1	62.9	18.4	18.5	7.7
県基準	4~5	67~112	20~30	14~28	5

2 根の伸長時期と適正なpH

根の伸長時期は主に9月～12月(主に11月)です。11月以降に深耕その他の管理によって根が切れてしまうと、活性の高い白色根の根量が著しく減少しますので注意しましょう(右図)。

また、土壌pHが低いと根の生長が阻害されます。昨年の屋久島の土壌は、平均pH4.1であるので、pH4未満の悪条件となっている茶園があると推察されます。来年、よりよい一番茶を収穫するために、秋の土壌管理に積極的に取り組みましょう。

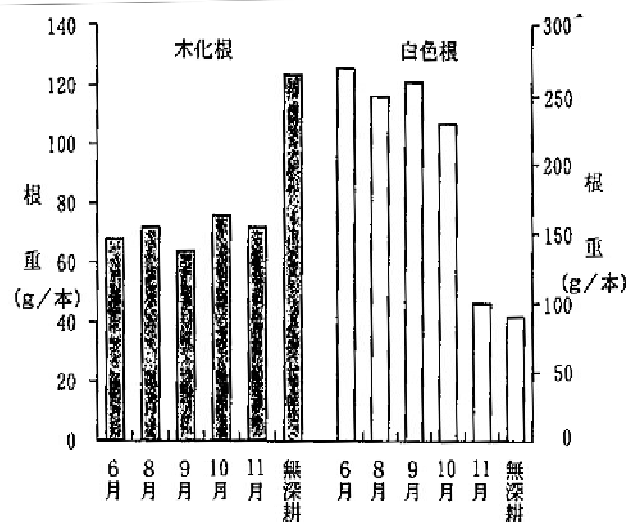
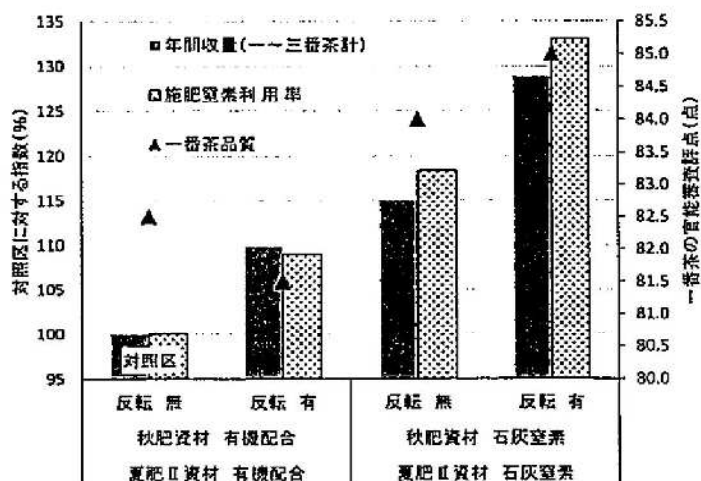


図1 深耕の時期と翌年春の根量（農水省茶試）

3 更新後の土壌管理について（農業開発総合センター茶業部普及情報）

茶園更新後に、石灰窒素を10kgN/10a（窒素分で10aあたり10kg程度）施肥することにより、同時期に有機資材を投入した場合と比較して、翌年の一番茶品質及び収量が優れるという試験成績が発表されました。

注意すべき点は①更新当年の深耕は翌年の1番茶に悪影響を与えるため、反転は深くなりすぎないようにする②石灰過剰とならないようpH4.5を超える畑では控えるなどありますが、実践してみてはいかがでしょうか。



たんかんの隔年結果防止のため、摘果を徹底しましょう。

1 隔年結果の要因

たんかんの隔年結果の要因は、①着果過多、②収穫遅れ、③気象災害などがあります。

その中でも着果過多は樹に大きな負担をかけるため、樹勢が回復するまで数年かかることもあります。そこで、今回は隔年結果を防止する基本的な摘果方法について説明します。

2 摘果の時期と摘果量

摘果は、生理落果終了後から始め、年に2～3回に分け、樹上選果もふまえ収穫まで随時行います。摘果の程度は、時期ごとに表1の着果量の目安（葉果比）基に摘果し、収穫前に図1のような着果量にします。奇形果、病虫害被害果、風傷果、小玉果等の果実を摘果し、7～8月は樹の赤道部、すそなり、内なりを中心に9月以降、秋芽の発生が見られなくなってから樹の上部を摘果します。

月摘果	着果量の目安	摘果の場所	摘果する果実	小玉果の目安
7月粗摘果	50～60葉に1果 片手の手のひらに1果	樹の赤道部、すそなり、内なり	奇形果、病虫害被害果、小玉果、	2cm以下
8月見直し摘果	樹の赤道部で70～80葉に1果 手のひら一つ半に1果	樹の赤道部、すそなり、内なり	風傷果、病虫害被害果、小玉果	3cm以下
9月仕上げ摘果	図1参照 樹赤道部で100葉に1果	樹の上部、赤道部、すそなり、内なり	風傷果、病虫害被害果、小玉果	4cm以下
10月樹上選果	果 両手の手のひらで1果	樹冠上部は、秋芽の発生がなくなった時期に行う	天なり果、果皮の粗い果実、小玉果	5cm以下



図1 樹の部位別最終着果量



写真1 摘果すべき果実

かいよう病（左），そうか病（中央），風傷果（右）

3 さいごに

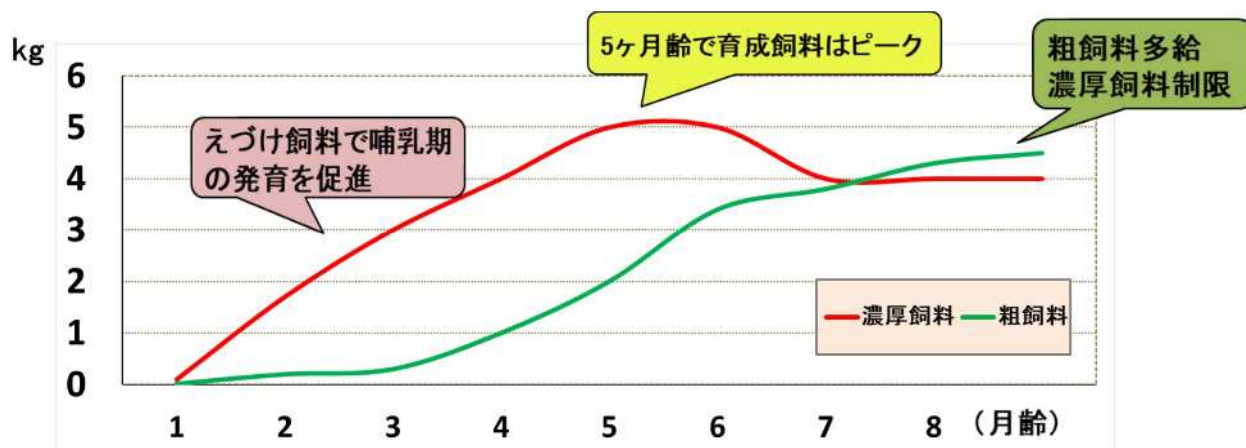
農林普及課では、関係機関、実証農家と一体となってたんかんの隔年結果を防止する摘果法について、さらにわかりやすい指標を作成するために試験を行っています。一定の成果ができましたらご紹介したいと思います。

（担当：樋口）

熊毛地区子牛育成飼料給与マニュアルの改訂

今回、牛の改良や粗飼料の実情に合わせてマニュアルの改訂を行いましたので、飼料給与のポイントについて紹介します。

1 飼料給与パターン（下図：去勢子牛の1日あたり）



ポイント1

3か月齢までは、えづけ飼料で第1胃絨毛の発達と体の発育を重視！

ポイント2

5か月齢は、骨格が最も発達する時期なので育成飼料をピークに！

ポイント3

6か月齢以降は、粗飼料で胃袋づくりを！

ポイント4

「育成の流儀」等のTMR飼料は粗飼料も含まれているため、飼料袋に記載されている給与の目安を参考にしましょう。

2 飼料を測ってみましょう

子牛がどれくらいの量を食べているのか把握することが、良い子牛づくりにつながります。下図は、「育成の流儀」を計測し、A4サイズのファイル（水色）と比較しました。



5kg



6kg



7kg

重さを量ることで、「見た目の量」と「実際に測った量」は分かりづらいことが把握できます。実際に測った量を目安に、子牛の発育に応じて給与量を増減しましょう。

「種子島子牛せり市名簿」にも子牛育成マニュアルが掲載されているので参考に使ってください。

『さつまいも基腐病』の植付後からの対策

1. 「さつまいも基腐病」とは？

本県では平成30年12月に初めて確認され、屋久島町内でも発生し、大きな被害をもたらしています。激しい風雨や水はけの悪い箇所で発病が拡大します。茎の地際付近から黒変し、茎葉、芋まで黒変・枯死します。（写真1）



写真1) 基腐病の被害株

2. 植え付け後～収穫までの管理

①発病が疑わしい株は直ちに除去し、抜き取った株はほ場外に持ち出し、土中深く埋設します。ほ場内に罹病株を放置することがないように注意してください（写真2）。



写真2) 発病初期のほ場

②状況に応じてZボルドーなどの農薬を散布し、蔓延を予防しましょう。

3. 収穫後の残さ処理（ここが重要！）

①収穫残さを除去、または耕うんにより残さの分解を促進します。（残さの中に病原菌が生き残っている：写真3）



写真3) 土の中に残った残さ

4. 次年度のほ場準備、育苗、苗消毒

①健全苗の確保（発病ほ場の種いも、苗は使用しません）

②植付前は、必ず苗消毒を行いましょう。

③消毒液（ベノミル水和剤）は使用日ごとに調製。（写真4）

④排水対策を十分に行いましょう。

⑤可能な場合は、土壌消毒を行いましょう。

⑥連作を避け、他の作物を栽培しましょう（輪作）。

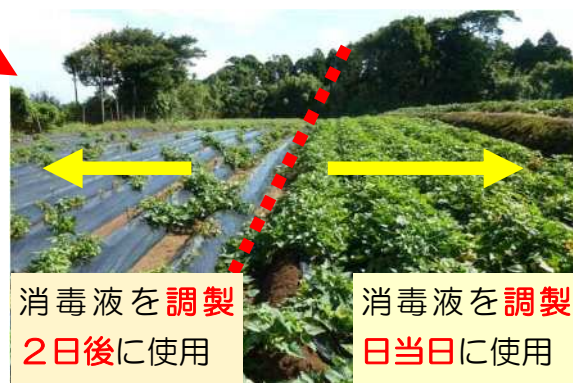


写真4) 消毒液の調製日と消毒効果事例

注）特に基腐病を発症したほ場は、残さ処理が不十分な状況では、しばらくはさつまいも栽培に使用しない方が良いでしょう。

農村整備係ではこのような事業をしています！

農家の所得向上を目指して、現在、主に下記の事業を行っております。

鳥獣害防止柵

シカ・サルによる作物被害を防止するため、高さ約2.2mの電気柵の設置を行っています。電気柵の効果発現のために、定期的な維持管理を行いましょう。

【R2年度実施場所】

尾之間、小島、平内、湯泊



畑かんパイプライン

農地へ水を送るため、道路下に埋設するパイプライン工事や、お茶畑等にスプリンクラーの設置を行っています。作物へのかん水や、薬剤散布、降灰除去にも利用されています。

【R2年度実施場所】

平野、永久保、中間



【※①給水栓からの漏水※】



【※②堆肥などを投入※】

今後、高平、麦生、原区において、①鋼管が腐食した給水栓の更新や、②苦土石灰、ケイカル、ヨウリン、堆肥などの土壌資材を投入する土層改良事業などの事業を予定しています。